

「中野区イクボス宣言」を行いました

平成 29 年 6 月 15 日、中野区では、区長、副区長、教育長、代表監査委員及び全管理職が「イクボス」となることを宣言しました。この宣言は、職員の個人としての充実した生き方を仕事に生かすことが、区民にとっての最大の価値を生み出すことにつながり、そのような働き方や組織をつくり上げていくことが重要であるという考えを実践するものです。管理職として、職員の人生とキャリアを全力で応援する「イクボス」となることを宣言しています。

イクボス4か条

1. 職員が安心して出産やその支援、育児、介護に取り組むことができるよう、職場環境を整備します。
2. 1を実現するため、情報共有やコミュニケーションを円滑にするなど組織力を向上し、チームワークによる業務遂行を進めます。
3. 職員一人ひとりが常に業務改善に努め、超過勤務の縮減や休暇取得を進める職場環境をつくりまします。
4. 「ワーク・ライフ・バランス」実現に向け、職員を促すとともに、「イクボス」自らも率先して実践します。



「イクボス」とは・・・

部下や同僚等の育児や介護等に配慮、理解のある上司のこと。中野区の「イクボス」は、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて職員に促すとともに、自らも率先して実践します。2017年3月に、国が決定した「働き方改革実行計画」において、時間外労働の上限規制や、同一労働同一賃金、労働生産性の向上などが盛り込まれていますが、すべての企業が働き方の意識と環境を抜本的に変えていくためには、そのキーパーソンとなる「イクボス」の推進が必要です。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をご存じですか？

「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことをいいます。

しかし、現実の社会では、「安定した仕事に就けず経済的に自立できない」「仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない」「仕事と子育てや親の介護との両立が難しい」等の理由で、多くの方がワーク・ライフ・バランスを実現できていません。

「一億総活躍社会」に向けた最大のチャレンジとして「働き方改革」が位置付けられるなか、様々なライフスタイルや、子育て期、親の介護などを行う中高年期といった人生の各段階におけるニーズに合わせて多様な働き方・生き方を選ぶことのできる「ワーク・ライフ・バランス」社会の実現への取組は、より一層求められています。

中野区におけるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組

◆ 区職員の時差勤務試行 ◆

勤務時間を1時間の範囲で前後に割り振る時差勤務を試行として実施しました。職員は、家族との時間や趣味、子どもの送迎など、朝夕の時間を自身の生活にあわせて柔軟に活用しました。

< 試行期間 >

第1回 2017年7月11日(火)～25日(火) 政策室及び経営室所属で希望する職員が対象

第2回 2017年8月14日(月)～9月1日(金) 本庁舎勤務で希望する職員が対象

※東京都の快適通勤ムーブメント「時差Biz」に参加しており、第1回は時差Biz集中取組期間に行ったものです。

時差Bizとは・・・

東京都が行っている、通勤ラッシュ回避のために通勤時間をずらす働き方改革のひとつ。鉄道事業者をはじめとした300社を超える企業や自治体に参加。

今年の夏は気温の上がり下がりが極端でした。身の回りはとて言えば毎日のニュースのものすごいスピードで動く感触には驚かされています。指導者に就いてヨガを習い始めて5年になります呼吸法が身体や心に何か得るものがあるかなと思いつきながら続けていたところ「アンサンブル37号」で『働く女性のメンタルヘルス』の講演会の最後にマインドフルネスの呼吸法を行ったという記事を読み、なるほどと思った次第です。さて、ひと昔前「共働き」という言葉のもとで育児制度も整わない中、働き続けたことがあります。振り返ると子どもを他人に預けて働き続けるということの居心地の悪さのような空気をいつも背中に感じていたものでした。今思えば「仕事と生活の調和」など考えも及びませんでしたし少数派でした。時は過ぎ、昨今は働き方も変わり「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の推進が重要課題となりつつあります。少しずつでも企業が内部変革に取り組んでいるという情報もあります。多様な働き方を進めようと時間をかけて意識改革をしようとする企業の名前も挙がっています。働き続けるからには周りからの後押しを信じて諦めることなくよい働き方を目指していると思っています。(編集委員 青地)

ある調査によると、今の生活に対する満足度は、「自由に使える時間」の長さにおおむね比例するという結果がでたそうです。

ワーク・ライフ・バランスの観点からみると、ワーク(仕事)とライフ(生活)とのバランスということでしょうか。ワークに関してはこの間、多様な働き方が認められるようになってきたと思われれます。ただライフに関してはあくまでも仕事以外の時間と捉えられているような気がします。仕事以外の時間も家事、育児や介護などに追われていけば、それは「自由に使える時間」とは考えないでしょう。幼い子どもや、老親の人生に寄り添う時間に精神的なゆとりがもてるようなワーク・ライフ・バランスを目指してもらいたいと思います。ちなみに、今の生活に対する満足度が最も高かったのは、40代～50代にかけての主婦でした。

(編集委員 山口)

事業実施報告

平成29年度 男女共同参画週間講演会

「キッチンからはじめる家族の絆～『幸せホルモン』があふれる暮らしを～」
講師：コウケンテツさん(料理研究家)

2017年6月10日 実施

食べることは生きること。家族での「食べる」時間を大切にしている料理研究家のコウケンテツさんから食を通じた家族とのコミュニケーションや仕事と家庭生活との両立について語っていただきました。受付開始初日から多くの方にお申込みいただき定員にすぐに達してしまった本講演会は、多くの方にご参加いただき大変盛況のうちに終わりました。



「結婚」や「家事分担」に関する男女の意識の違いについてのお話から始まりました。パートナー(男性)の家事時間が長くなるほど、「結婚している人のほうが幸せ」と考える女性が増加するといいますが、独身の男女を比較すると大きな違いはない「料理をする回数」が結婚後は大きく差が開くといえます。世界とアジアにおける男女平等度ランキングの上位10位の国の紹介もありましたが、日本は入っていません。世の中で大切なことは「ごはんをきちんとたべること」が両親の教えだったとのことで、現在行っている親子を対象にした子ども向けの料理教室についてのお話もありました。オキシトシン、セロトニンといった「幸せホルモン」は家族や親子、好きな人と料理を作り、食事をする事でたくさん出るといいう研究結果もあるといえます。現在2児のパパでもあり、積極的に育児、家事に関わっていますが、1人目のお子さんが生まれた頃のお話や妻との関係性、離乳食についてなど、多くのエピソードが語られるとともに、お子さんとの日々の暮らしの微笑ましい写真も紹介されました。

GUIDE

男女共同参画センターからのお知らせ

毎年11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

「女性に対する暴力をなくす運動」パネル展 ～「心に響かせるDV根絶パネル」～

【日時】2017年11月13日(月)～17日(金) 午前8時半～午後5時
☆最終日は午後4時まで

【会場】区役所1階区民ホール

DV(ドメスティック・バイオレンス)は、他人事ではなく、誰の周りにも起こりうる身近な問題です。

何気ない日常の写真と印象的なコメントで構成された「心に響かせるDV根絶パネル」を展示します。NPO法人男女平等参画推進みなと制作のこのパネルは、コピーライター、アートディレクターの協力で完成したもので、コピーライター業界での受賞歴もあります。

日常生活にひそむDVが、パネル上に言葉と写真で浮き彫りになっています。ぜひこの機会にご覧ください。

中野区 女性相談のご案内 ～ひとりで悩まず まずはご相談を～

電話番号 03-3228-5556 月～金曜日(祝日、年末年始除く)
午前8時半～午後5時

DV、夫婦や親子の問題、生き方や職場の人間関係など女性の抱える様々な悩みについて、「どこに相談すればいいのかわからない」。そんな時は、まずはお電話を。

編集後記 from 区民編集委員

秋となり、野球ではクライマックスシリーズ、日本シリーズと続きいよいよシーズンも終わります。とても寂しい思いをしています。シーズン中、時には球場に足を運ぶこともありCTVでは全て試合放映可能に設定、ひいきのチームを応援することで現実生活のつらいことなど忘れさせてもらっています。

(編集委員 青地)

本来ならば、秋も深まりいい季節ですね…とりたいところですが今年は寒いですね。夏から雨が多く、太陽が恋しいです。

今月は衆議院選挙がありました。私ごとですが18歳の息子が選挙デビューをしました。候補者についてパソコンで調べているのを見て、世代の差を感じています。

(編集委員 山口)



中野区男女共同参画センター アンサンブル

〒164-8501 中野区中野4-8-1

区役所内 4階6番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860

Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp
▶窓口 月～金曜日 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)